

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	「主体的に学び合い、かかわり合いながら学び続ける子ども」を目指して、算数科を核にして授業研究を進める。①一人ひとりが『問い』を見つけ、つながりを意識して解決する授業展開を工夫した。②目指す子どもの姿を明確にすることで、思考の流れを大切に、学んだことを価値づけたり、次の『問い』や学びにつなげたり、学びにつなげたりしていくようにする。	重点研究の三年目として左記の通りテーマを設定し、算数科を核にして授業研究を進めた。①一人ひとりが『問い』を見つけ、つながりを意識して解決する授業展開を工夫した。②子どもたちの思考の流れを大切に、学んだことを価値づけたり、次の『問い』や学びにつなげたり、生活の中で生かそうとしたりできるように取り組んできた。	B
豊かな心	①交流活動を通して互いに親しみをもち、協力し合って活動する姿を育てていくようにする。学年に応じたためあてを意識して活動できるように振り返りカードを活用していく。②道徳活動を充実させ、自尊心を高め、人間関係を形成する力を育てていく。	①ベア学年による縦割り交流活動や6年生との交流活動を通して、相手のことを考えて活動内容と一緒に楽しめる工夫を行うなど学年を越えて協力し合う姿が多く見られた。また、活動ごとに振り返りを行い、次の活動につなげていくことができた。②道徳教育をしっかりとカリキュラムに位置づけて行ったり、人権週間には、同じ内容項目で各クラスで道徳教育に取り組んだりして、自尊心や人間関係を形成する力を育てることができた。	B
健やかな体	①主体的に学習に向かい、ICT機器を効果的に活用した課題設定や解決の方法を自分たちでつくっていくことで、「わかる、できる」体育学習を目指す。②これまで続けてきた「姿勢体操」に加え、感染症やその予防のために、自分の生活を自分で振り返り、より健康的な生活を選び取っていくような力を身に付ける。	①高学年を中心に、ICT機器を使い、手本動画と自分の動きを比べて課題設定や課題の解決につなげることができた。低、中学年は手本動画の視聴等でICT機器を活用した。②これまで続けてきた「姿勢体操」に加え、視力検査の結果から目の健康についても取り組みを実施した。より健康的な生活が選べるように、生活リズム表による振り返りを行い、冬休みには、PTAと連携し歯みがきのみがき残しチェック票を再開した。	B
キャリア教育	①「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。②異学年の交流活動や代表委員会、委員会活動等を通して、高学年のリーダーシップを育てるとともに、互いの立場になって行動しようとする態度を育てる。	①定期的に自分の学習状況やキャリア形成を振り返るだけでなく、縦割り交流活動や6年生との交流活動でも振り返りをもめに行うようにし、自身の姿や成長をより具体的に自己評価できた。②異学年交流や委員会活動等で上級生がリーダーシップをとって活動する場を設けることで、上級生は自分達の力で活動していることを見ることができた。また、下級生は上級生の言動を身近で見ることができ、学年間での活動の場を設け、リーダーシップをとって行動できるように回った。	B
いじめへの対応	①いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ防止対策委員会を中心とした組織で対応する。②「だれにとっても居心地の良い学校づくり」を軸とした委員会活動を行い、人権週間では、道徳や特活の時間を活用していじめについて考える。③日常的な児童指導において、社会のルール・マナーを守る気持ちや相手の気持ちを考えながら関わりを創っていく力を育てる。	①児童アンケートを計画的に行い、実態把握に努め、情報共有し、いじめの早期発見・解消・再発防止に向けて組織的に対応した。②横浜こども会議のテーマに沿って児童会から発信し、全校の活動に広げた。人権週間には、道徳や特活プログラムを通して、いじめを無くし、安心して過ごせる学校について考える場を設けた。③相手の気持ちを考えながら関わりが持てるように、各学年の学活の時間や学年集会の時間を活用していた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①「自ら学び 人とかわり 創り出す子」の育成のために、全教職員で協働し継続して実践する。②キャリアステージに応じた力の向上のために、チームでの研究・研修会を主体的に行う。③学年経営のチーム力向上のために、中・高学年に一部教科分担任制を取り入れる。教材研究等、校務の効率化を図る。	①学校教育目標振り返り研修を行い、育てたい子どもの姿を共有することで、教職員間の意思統一を図り子どもの指導に当たった。②チーム研を行い、それぞれのキャリアステージにおける課題や学校運営へのフィードバックを実践した。③チーム学年経営の基盤を生かし、教材研究や校務の効率化を図った。	B
児童指導	①児童の情報や指導方針を職員間で共有し、未然防止・再発防止に努め、組織的に対応する。②幼保小中と連携し、よりよい教育環境の整備を図る。③安心・安全な学校生活のためのきまりを職員で共通理解するとともに、児童・保護者とも共有し、家庭と連携しながらルールを理解・順守する気持ちと力を育む。	①早期発見に努め、情報共有しながら組織的に対応を行った。②1年生と幼稚園保育園児との対面での交流再開や中学校への見学や交流活動を通して、子ども達の入学後のイメージづくりを行い、幼保小、小中の連携を図った。③学校だけでなく通じて積極的に情報発信し、家庭と情報共有をしてきた。	B
特別支援教育	①児童一人一人の困り感や課題に対して、専門機関や保護者とも、連携しながら合理的配慮や特別支援的な対応を行うことにより、児童が自信をもち安心して過ごせるようにしていく。②研修やコンサルテーション等を行い、職員個々のスキルアップと共に、チーム力の向上を図っていく。	①担任によるチェックリストやコンサルテーションを基に、組織的な支援を行った。特別支援教室「つながる〜む」の運用を始め、利用する児童の習熟度に合わせた内容を担任と担当が連携しながら行った。②コンサルテーションや研修会(配慮が必要な子どもたちの進路について)や、保護者対応に活かす)を行い、職員のスキルアップを図った。	B
危機管理	①安全朝会や交通安全教室などを通して、登下校の安全や道路の安全な歩き方についての理解を深めるとともに、実践に対する意欲を高めることをわらう。②全職員・全校児童で協力して避難訓練や不審者対応訓練を行うことを通して、児童や職員の防災や非常時における意識の向上につなげることができた。③引き取り下校訓練を行うことを通して、非常災害時における避難の仕方を理解することができるようにする。	①朝会や授業(交通安全教室・防災出前授業)を通して、登下校や校内での安全な歩き方に対する児童の理解を深めることができた。②年間を通して各種訓練を行うことで、児童や職員の防災意識の向上につなげることができた。③引き取り下校訓練を通して、非常時における避難の仕方を保護者・職員ともに理解することができた。	B
地域連携		①学校運営協議会・地域学校協働本部等の機会を通して、地域とのより一層の連携を図っていく。②保護者・地域と連携し、生活科や社会科、総合の時間の学習等を通して、より地域のことを知ったり、学びを深めたりする。③人とかわる力を育てるため、年齢も立場も違うさまざまな人との交流活動を行う。④ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めていく。	

ブロック内評価後の気づき	中学校の授業を参観し、「児童・生徒の主体的な学びを中心とした問題解決学習の推進」というテーマを設定したことで、授業改善していく教師の姿や主体的な学びを進める生徒の姿が見られた。また、数年ぶりに児童生徒交流会を行い、実際の中学校の授業の様子や部活動の雰囲気を見学することができた。子ども会議では、ブロックとして「いじめの未然防止」をテーマに各校での取組を紹介し合うことで互いに考えを深めることができた。4校連絡会を開催することで、各校の行事の時期や実施方法などについて情報交換をしたり、自校の行事に生かしたりすることができた。
学校関係者評価	学校運営協議会の委員に学校評価を説明した上で意見をいただいた。今年度はコロナ禍における安定した学校経営を高い評価(特に3年ぶりの宿泊体験学習や全校一斉の運動会など)となっている。しかし、ICT機器活用の学校評価が低いことに関心をもち、アドバイスをいただいた。ポストコロナの来年度の学校経営に生かしていきたい。

中期取組目標振り返り	学校教育目標「自ら学び 人とかわり 創り出す子」を育てるために、重点研・特別活動・学校行事等で子どもたちの成長を見守った。教職員のふり返りでは、コロナ禍で制限された活動の中でも子どもたちは学び続け、今できることを見つける様子を見かけた反面、指示を待ってしか行動できない、自分たちの言動に自信をもつ等のためにも、いろいろな活動をさらに広げたいという意見もあった。重点研では、主体的な学びのための子どもたち一人ひとりの『問い』に目を向け、工夫した材からの学習展開を見直すことができた。保護者評価でもおおそ教育活動に満足していただいている。ICTの活用について今後見直していきたい。
------------	--

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	「主体的に学び合い、かかわり合いながら学び続ける子ども」を目指して、ICT機器を活用した情報活用能力を育成するよう授業研究を進める。①タブレット端末の活用について教職員と児童のスキルアップを図り、様々な学習の場で活用することで子どもたちが主体的に学ぶ授業展開を工夫していく。②目指す子どもの姿を明確にすることで、思考の流れを大切に、学んだことを価値づけたり次の『問い』や学びにつなげたりしていくようにする。	①主体的に学び合い、課題設定や解決の方法を自分たちでつくっていくことで、「わかる、できる」楽しい体育学習を目指す。②自分の生活を振り返りより健康的な生活を選び取っていくように、生活リズムを整えるとともに食に関する指導の充実を図る。引き続き「良い姿勢」の取り組みを実施していく。感染症予防による活動制限等が徐々に無くなるにつれてけがの件数が増えたので、けがの予防に取り組むことができるようにする。	
豊かな心	①交流活動を通して互いに親しみをもち、協力し合って活動する姿を育てていくようにする。学年に応じたためあてを意識して活動できるように振り返りカードを活用していく。②道徳活動を充実させ、自尊心を高め、人間関係を形成する力を育てていく。	①「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。②異学年の交流活動や代表委員会、委員会活動等を通して、高学年のリーダーシップを育てる。また、その姿を下学年が見ることで、目指す姿をイメージできるようにしていく。	
健やかな体	①主体的に学習に向かい、課題設定や解決の方法を自分たちでつくっていくことで、「わかる、できる」楽しい体育学習を目指す。②自分の生活を振り返りより健康的な生活を選び取っていくように、生活リズムを整えるとともに食に関する指導の充実を図る。引き続き「良い姿勢」の取り組みを実施していく。感染症予防による活動制限等が徐々に無くなるにつれてけがの件数が増えたので、けがの予防に取り組むことができるようにする。	①定期的な自分の学習状況やキャリア形成を振り返るだけでなく、縦割り交流活動や6年生との交流活動でも振り返りをもめに行うようにし、自身の姿や成長をより具体的に自己評価できた。②異学年交流や委員会活動等で上級生がリーダーシップをとって活動する場を設けることで、上級生は自分達の力で活動していることを見ることができた。また、下級生は上級生の言動を身近で見ることができ、学年間での活動の場を設け、リーダーシップをとって行動できるように回った。	
キャリア教育	①「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。②異学年の交流活動や代表委員会、委員会活動等を通して、高学年のリーダーシップを育てるとともに、互いの立場になって行動しようとする態度を育てる。	①いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ防止対策委員会を中心とした組織で対応する。②「だれにとっても居心地の良い学校づくり」を軸とした委員会活動を行い、人権週間では、道徳や特活の時間を活用していじめについて考える。③日常的な児童指導において、社会のルール・マナーを守る気持ちや相手の気持ちを考えながら関わりを創っていく力を育てる。	
いじめへの対応	①いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ防止対策委員会を中心とした組織で対応する。②「だれにとっても居心地の良い学校づくり」を軸とした委員会活動を行い、人権週間では、道徳や特活の時間を活用していじめについて考える。③日常的な児童指導において、社会のルール・マナーを守る気持ちや相手の気持ちを考えながら関わりを創っていく力を育てる。	①学校教育目標を提案内容にしっかりと位置づけ、どの教育活動に対しても全教職員の共通理解を図る。②授業時数を見直し、放課後の時間を充実させると共に、学習計画を見直しよりよい教材研究を行う。③チーム学年経営を多くの学年で実施し、いろいろな教員の目で指導に当たり、子どもの成長を多方面から見守る。	
人材育成・組織運営(働き方)	①学校教育目標を提案内容にしっかりと位置づけ、どの教育活動に対しても全教職員の共通理解を図る。②授業時数を見直し、放課後の時間を充実させると共に、学習計画を見直しよりよい教材研究を行う。③チーム学年経営を多くの学年で実施し、いろいろな教員の目で指導に当たり、子どもの成長を多方面から見守る。	①児童の情報や指導方針を職員間で共有し、未然防止・再発防止に努め、組織的に対応する。②幼保小中と連携し、よりよい教育環境の整備を図る。③安心・安全な学校生活のためのきまりを職員で共通理解するとともに、児童・保護者とも共有し、家庭と連携しながらルールを理解・順守する気持ちと力を育む。	
児童指導	①児童の情報や指導方針を職員間で共有し、未然防止・再発防止に努め、組織的に対応する。②幼保小中と連携し、よりよい教育環境の整備を図る。③安心・安全な学校生活のためのきまりを職員で共通理解するとともに、児童・保護者とも共有し、家庭と連携しながらルールを理解・順守する気持ちと力を育む。	①児童一人一人の困り感や課題に対して、専門機関や保護者とも、連携しながら合理的配慮や特別支援的な対応を行うことにより、児童が自信をもち安心して過ごせるようにしていく。②研修やコンサルテーション等を行い、職員個々のスキルアップと共に、チームで対応する力を高めていく。	
特別支援教育	①児童一人一人の困り感や課題に対して、専門機関や保護者とも、連携しながら合理的配慮や特別支援的な対応を行うことにより、児童が自信をもち安心して過ごせるようにしていく。②研修やコンサルテーション等を行い、職員個々のスキルアップと共に、チームで対応する力を高めていく。	①消防や警察等、外部機関と連携した出前教室や校内での安全朝会等を通して、登下校の安全や道路の安全な歩き方についての理解を深めるとともに、実践に対する意欲を高めることをわらう。② 浸水時避難訓練や不審者訓練等本校にとってより必要とされる訓練は何かを明確にして訓練を計画実施することで、児童や職員の防災や非常時における意識の向上に努める。③ 保護者と連携して引き取り下校訓練を行うことを通して、非常災害時における避難の仕方を理解することができるようにする。	
危機管理	①消防や警察等、外部機関と連携した出前教室や校内での安全朝会等を通して、登下校の安全や道路の安全な歩き方についての理解を深めるとともに、実践に対する意欲を高めることをわらう。② 浸水時避難訓練や不審者訓練等本校にとってより必要とされる訓練は何かを明確にして訓練を計画実施することで、児童や職員の防災や非常時における意識の向上に努める。③ 保護者と連携して引き取り下校訓練を行うことを通して、非常災害時における避難の仕方を理解することができるようにする。		
地域連携	①学校運営協議会・地域学校協働本部等の機会を通して、地域とのより一層の連携を図っていく。②保護者・地域と連携し、生活科や社会科、総合の時間の学習等を通して、より地域のことを知ったり、学びを深めたりする。③人とかわる力を育てるため、年齢も立場も違うさまざまな人との交流活動を行う。④ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めていく。		

ブロック内評価後の気づき	
学校関係者評価	

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
キャリア教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
児童指導	c7		
特別支援教育	c8		
危機管理	c9		
地域連携	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--